

令和5年度
田上町教育に関する事務の
点検及び評価報告書

令和6年9月
田上町教育委員会

目 次

1. 田上の12か年教育の推進		
① 教育内容の充実	総合評価：B (73.2)	P 1
② 教育環境の整備	総合評価：B (75.0)	P 6
2. 教育支援の充実		
① 教育支援の充実	総合評価：B (71.8)	P 10
3. 生涯学習の推進		
① 施設の有効活用、連携と施設の充実	総合評価：B (75.0)	P 14
② 生涯学習の情報提供	総合評価：C (50.0)	P 15
③ 多様な学習機会の創出と展開	総合評価：B (72.7)	P 16
④ 主体的な活動への支援、人材の育成、活用	総合評価：B (75.0)	P 20
⑤ 地域活動との連携、活性化	総合評価：B (70.0)	P 21
4. 生涯スポーツの推進		
① 生涯スポーツの普及、啓発	総合評価：B (70.0)	P 24
② スポーツ施設の管理、運営	総合評価：C (50.0)	P 25
③ スポーツ活動の振興	総合評価：B (68.7)	P 26
5. 芸術・文化の振興		
① 芸術行事等の充実	総合評価：B (75.0)	P 28
② 芸術、文化団体の指導者の育成	総合評価：B (75.0)	P 29
6. 文化財と伝統芸能の継承		
① 文化財の保存・活用	総合評価：C (58.3)	P 30
② 伝統芸能の継承	総合評価：C (50.0)	P 31

評価方法

【各事業評価の数値化】

- s＝期待される水準をはるかに上回っている（100）、a＝満たしている（75）、
b＝やや満たしている（50）、c＝あまり満たしていない（25）、d＝満たしていない（0）
※ 各事業の数値化において、今での「a」評価を「s」評価に、「b」評価を「a」評価にという形に変更しました。また、「a」評価の「十分満たしている」を「満たしている」、「b」評価の「満たしている」を「やや満たしている」に変更しています。

【各項目の評価基準】

A＝100～81 B＝80～61 C＝60～41 D＝40～21 E＝20 以下

- ※ 各項目については、第6次田上町総合計画に基づいて設定しています。
※ 各事業の評価を数値化し、その平均値を上記の評価基準に基づいて総合評価といたしました（小数点第2位以下切り捨て）。
※ 各事業評価右側の（ ）内は、前年度の評価を明記しております。

1. 田上の12か年教育の推進

① 教育内容の充実

総合評価：B (73.2)

施策のねらい

- ・ 「田上の12か年教育」の推進に向けて、幼小中学校の全職員が「褒めて育てる教育」を基盤に「ミッションに基づく一体感を伴う指導」、「子どものよさと可能性に着目した指導」に努めながら評価と改善に取り組み、その実効性を向上させていきます。
- ・ 園児、児童、生徒と教職員を対象に「田上の12か年教育」アンケートを実施し、その結果から次年度の全職員で改善・努力すべき事項をはっきりさせます。そして、保護者からのアンケートや地域の方からの意見も参考にし各校が改善・努力事項を自校の運営や学習指導、生活指導等に活用できるようにします。
- ・ NRT標準学力検査（全学年対象）、文科省の全国学力・学習状況調査（小6と中3対象）等の分析結果を各校に提供し、授業改善の推進を支援します。

(1) 「田上の12か年教育」の理念継承

評価：a (a)

【事業の概要】

「田上の12か年教育」の理念と取組を園・学校・地域が共有し合って、互いの役割を担いながら田上の子どもの教育にあたる。

【成 果】

田上の12か年教育の中核であるキャリア教育に係る事項並びに主体的・対話的で深い学びに係る事項について、年中園児から中学3年生までと教職員全員を対象にアンケート調査を行った。その結果を田上町教育研究協議会（以下「町教研」という。）や広報紙、研修会での指導の際に園・学校に示すとともに、単年度のグランドデザインにして全教職員に配付し、周知した。園・学校がミッションと連携の重点、互いが担い合う役割等を理解し合って、田上の子どもの指導にあたるようにした。

【課題・意見】

校長のリーダーシップと説明努力で保護者・地域から学校に関心を一層深めていただき、学校の応援団を増やしていく。

(2) キャリア教育の推進

評価：a (a)

【事業の概要】

田上の子どもが田上で多くの人と関わり、多様な経験を積んでいく活動を通して、「夢に向かう力」、「課題を捉え解決する力」、「自分の良さと可能性を見つけ発揮する力」、「よい人間関係を構築する力」、「田上への愛着心」を育む。

【成 果】

町内の商工業者やPTA、学校関係者、教育委員会等で組織する「田上町キャリア教育推進協議会」を設置し、幼・小・中学校及び地域、産業界からの参加を得て、一貫したキャリア教育を展開した。田上小学校は地域に出て田上の良さを体験したり調べたりする「田上学」と地域の方から学ぶ「寺子屋授業」、羽生田小学校は「見つけよう田上の宝～身近にあるもの、梅・竹・米～」を学習のテーマに設定し、「田上の宝」を探す活動、田上中学校は「地域に学び、地域とつながり、地域の未来を考える」をテーマにした地域学習など、ふるさとを大切に思う心を育てる活動に取り組んだ。

【課題・意見】

各学校は学校独自の特色ある学習を提案し、児童生徒も積極的に多くの人と関わり、田上への愛着心を育む活動に取り組んでいる。

今後は、これまでの学習を大切にしつつ、国と県が取り組みを推進するアントレプレナーシップ教育の視点を加えた内容に見直すことで、様々な社会変化の中で主体性を持って課題に挑む人材を育成していく。

(3) 学習指導要領の徹底

評価：a (a)

【事業の概要】

学習指導要領の趣旨を徹底するとともに、その目標を達成できるように幼稚園、小学校、中学校が連携して取り組む体制を構築する。

【成 果】

学習指導要領と田上の12か年教育とのつながりを明示し、田上の教職員が努力と創意すべき事項を確認し合えるようにした。小中学校が主体的で対話的な学びの追求を自校の研究計画に位置付けて確実に実践できるよう支援するとともに、小中学校でのICTの活用による指導の充実、タブレット端末による学習ソフトの活用などを推進した。

【課題・意見】

新潟県教育委員会の施策である教員一人一人のOJT(On the job training:日常業務につきながら行う教育訓練)で力量を向上させている。田上町の小中学校のICTの取組の概要を保護者と地域の方々に広報紙等で周知して、その実効性向上につないでいく。

(4) コミュニティ・スクール

評価：a (a)

【事業の概要】

「開かれた学校」から1歩前進し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを保護者・地域の皆さんと共有し、地域と一体となって子どもたちを育む、「地域とともにある学校」を目指す。

【成 果】

平成29年4月1日に小中学校3校で学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールをスタートした。新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、地域の方々と各校の関わりが活性化し、地域コーディネーターの働き掛けもあり、たがみバンブーブーや田上夏まつりへの小中学生参加など、学校と地域が接する機会が増えた。

【課題・意見】

「地域とともにある学校」を目指し、制度の浸透・地域の理解を深めるため、学校、学校運営協議会委員、学校地域コーディネーター及びPTAがさらに連携し、町全体で子どもを育む体制の構築に努める。

(5) 総合学習事業

評価：a (a)

【事業の概要】

地域の協力を得ながら、各校の生活科と総合的な学習の時間における町内での多様な活動を支援する。

【成 果】

田上の人材活用資料を活用する、グラウンドデザインや広報誌に主な活動を掲載して保護者に周知する、学校地域コーディネーターを活用することによって、各校では、活動の評価と見直しが推進されている。

【課題・意見】

現行の活動を学習指導要領の目標や授業時数とのつながりで全校的に見直して、児童生徒がよりよく課題を解決しながら自己の生き方を考えていくための資質・能力を身に付けていくことが課題である。

(6) アウトメディア・ウィーク事業

評価：a (a)

【事業の概要】

幼稚園年中から中学校3年生まで、園児・児童・生徒が在籍する全家庭を対象に、家庭での子どものメディア接触について、家族で考え、家族でルールを作り、家族で取り組むことを促す。

【成 果】

町教研養教部会と連携して、年3回実施した。メディア接触に伴う様々な問題や発達段階に応じた具体的な取組を保護者に周知した。小学校の保護者65.5%以上、中学校の保護者の96.0%からアンケートの回答があり、関心は高いと思われる。「メディアから少し離れて家族と過ごす時間はお互いの気持ちを知れたり子供達の成長に気付いたり、とてもよい時間でした。」、「家族みんなで考え直すきっかけになったなと思います。」といった肯定的な受け止めが多かった。

【課題・意見】

「家庭でスマホ使用の約束はあるか」に「ない」と回答する割合は小学校5年生から中学3年生まで約23%もあり、高い割合である。田上の子をネット使用等で加害者にも被害者にもさせない取組が必要である。

(7) 夢ナビカルテ事業

評価：b (b)

【事業の概要】

県教育委員会が推進する「郷土愛を軸としたキャリア教育の推進」を積極的に活用して、田上の児童生徒に「田上への愛着や誇りをもち、未来を切り拓く力」を育てる。

【成 果】

総合的な時間を中核にして、町ぐるみで児童生徒が田上で学ぶ活動に取り組み続けている。学校は、児童生徒が多様な人々の生き方を知ったり、様々な職業を体験したりしながら、自分の学習や生活に活用することを大切にしている。一人一人が整理したキャリア・パスポートを小学校から中学校へ、中学校から高等学校に引き継いで指導に活用している。

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症の5類への移行により、各校で学校行事等の見直しをすすめる、キャリア・パスポートを家庭での話題にして、児童生徒の主体的な学習や生活に活用できるようにしたい。

(8) 田上夏まつり運営サポートスタッフ事業

評価：－（a）

【事業の概要】

小中学生が田上夏まつりに運営サポートスタッフとして参画することで、自己有用感を高めるとともに、地域との多様な関わりをもつ機会を提供する。

【成 果】

令和4年度に「たがみバンブー」が開催され大盛況のうちに終了した。令和5年度からは、田上夏まつりを引き継ぐ形で、「たがみバンブー」が企画されることになったため、田上夏まつりは開催されず、小中学生の関わる機会がなかった。

【課題・意見】

田上夏まつりでの小中学生の関わりはなくなったが、「たがみバンブー」では、参加型事業として小中学生が大きく関わりを持つことになった。

(9) たがみバンブー

評価：a（一）

【事業の概要】

令和4年度に放置竹林を活用した交流人口拡大プロジェクトとして開催されたイベントの「たがみバンブー」は、令和5年度に田上夏まつりを引き継ぐイベントとして企画されることとなった。小中学生が制作活動に参画することで、運営に関わる体験や自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、地域との多様な関わりをもつ機会を提供する。

【成 果】

中学3年生が企画、運営から参加し、9月16日に行われたオープニングでは伝統の魅力化をテーマに、田上甚句や団九郎に焦点を当てた活動に取り組み、小学生は竹あかりの制作に参加した。

地域との交流を通して、地域に学び、地域とつながり、地域の未来を考えることで田上への愛着心を育み、自己肯定感、自己有用感を感じることができた。

【課題・意見】

引き続き、田上夏まつりを継承するイベントとして、小中学生の関り方を検討していく必要がある。

(10) 小中合同あいさつ運動

評価：a（a）

【事業の概要】

小中学生が、合同であいさつ運動を展開する。あいさつを通じて社会性を育む。

【成 果】

令和5年度は中学校の3年生有志が進んで両小学校を訪問し、小中学生が一緒になって行うあいさつ運動を行った。小中学校は、それぞれ、のぼり旗であいさつを呼び掛けたり、小学校訪問後も、代表児童生徒があいさつリーダーになったりして、全校で意欲的にあいさつ運動に取り組んだ。

【課題・意見】

「きちんと挨拶できる」ことへの生徒の自己評価は高い。日常的に挨拶が向上するよう田上町全体の活動にして、園児・児童・生徒・地域があいさつで交流し合う取組に育てていきたい。

(1 1) 管理指導主事の配置

評価：a (a)

【事業の概要】

学校運営と学習指導に係る適切な指導助言、就学指導、人事等にあたる。

【成 果】

主体的・対話的で深い学びを目指す学習過程や協働的学習の組織等の具体化を進め、授業改善の大切な視点として意識化が図られている。3校では、学習課題の提示を行い、児童生徒に学習のめあてを意識させるまでに授業が改善された。

また、校長が学校経営に活用できる資料の収集と提供にも努めている。就学指導、事故対応や各種報告、人事案件等では、学校や関係者と連絡調整を密にして連携している。

【課題・意見】

学校現場では、いじめ・不登校等生徒指導上の諸課題への対応、特別支援教育の充実、ICTの活用など、多様な課題に対応することが求められている。教員がこうした課題に対応できる思考力・判断力・指導力を育成する必要がある。

(1 2) 園・校長面談

評価：a (a)

【事業の概要】

各園学校の運営方針とグランドデザインに基づいて学校評価、進捗状況を確認し合い、改善すべき事項等を明確にして学校運営を支援する。

【成 果】

各園校長と人事や多忙化解消、不登校対策、学力向上対策等について各園校の課題とその解決のプロセスを確認し合うだけでなく、幼小中連携に係る改善や学習指導要領への取組状況、教職員の様子などについても情報を共有した。

【課題・意見】

管理職のリーダーシップの育成、カリキュラム・マネジメントといった学習指導要領対応への強化を継続していく。「田上の12か年教育」との関連付けを更に図っていく必要がある。

(1 3) 田上町教育研究協議会支援

評価：a (a)

【事業の概要】

幼稚園、小中学校の教職員の連携による「田上の12か年教育」の充実に取り組む研修、活動費用等の支援にあたる。

【成 果】

一斉研修に「田上の12か年教育」を理解し合う場を設けた。この場の設定は、田上町の特色の一つであり、転入職員にも有益である。共通理解したい事項は資料にして全員配付し、校内研修にも活用できるようにした。幼小中が組織として取り組むべき事項並びに一人一人が努力・創意すべき事項等を理解し合い、教務室の話題にしていく機会にした。

【課題・意見】

毎年、田上町グランドデザインを更新して、一人一人の「選択と集中」事項を示し、効率的で実効性ある「田上の12か年教育」に改善していく。

夏の全体研修における講師選定においても、今日的課題に対応できるよう支援していく。

(14) N R T 検査

評価：a (a)

【事業の概要】

小中学校において、客観性の高いN R T 検査（標準学力検査／集団基準準拠検査）を実施し、学力定着状況並びに同一集団の推移を把握して授業改善に活用する。

【成 果】

小学校1年生から中学校3年生までの実態を把握することができ、その結果を基に各校長と経年変化など情報を共有し、指導の改善に反映させた。

【課題・意見】

小学校では国語と算数の学力向上に取り組み、社会、理科などの教科への関心が希薄になる傾向がある。中学校では学力低下が課題である。教職員が自分の担任学級でなくても担当していない教科であっても、児童生徒の学力に関心を強くし、授業改善研修に取り組むことが重要である。

(15) W e b 検査

評価：a (a)

【事業の概要】

県教育委員会のW e b 配信システムに参加して、単元ごとの定着状況をきめ細かく把握し、授業改善に活用する。

【成 果】

年毎の結果と問題別正答率等を学校別に作成して、各学校に情報提供した。同集団の経年変化を提供して、学校が目の前の児童生徒の学力実態に関心を高めることができるようにした。

【課題・意見】

検査結果を学校運営や授業の改善につなげられるよう、適宜情報を提供し学力向上に生かそうにしたい。

② 教育環境の整備

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 新学習指導要領に沿って教育用教材を整備するとともに、計画的な入れ替えに取り組みます。
- ・ 児童生徒用教育用タブレット端末の活用やプログラミング教育推進のための ICT 環境を充実させ、授業の効率化と児童生徒の多様な学びを推進します。
- ・ 施設設備の劣化の進行状況に伴い、計画的・効率的な整備に努め、よりよい教育環境を維持します。

(1) 学校施設の計画的な改修

評価：a (a)

【事業の概要】

学校施設等の維持管理のための適正な管理と計画的な改修を行う。

【成 果】

田上小学校は、教務室エアコン修繕 1,793,000 円、ステージ・職員室・廊下照明器具修繕 1,320,000 円、給食棟雨漏修繕 2,992,000 円、羽生田小学校は、プールろ過機修繕

3,740,000 円、屋外遊具修繕 990,000 円、高圧気中開閉器修繕 1,056,000 円、田上中学校は、ステージ緞帳修繕 145,200 円、汚水浄化槽縞鋼板蓋修繕 308,000 円、浄化槽ブロー配管修繕 742,500 円を行った。

また、田上小学校は、体育館網戸設置工事 1,650,000 円、羽生田小学校は、体育館屋根改修工事 24,750,000 円、体育館防球ネット設置工事 616,000 円、田上中学校は、プール建屋改築工事 15,852,100 円を行った。

【課題・意見】

各学校とも築 30 年以上が経過し老朽化が進んでいるため、当初予算で計上した修繕料のほか、緊急を要する修繕に対応するため補正や予備費充当を行った。長期的な展望に立ち、適切に維持管理していく必要がある。

(2) 教育教材等の計画的な整備

評価：a (a)

【事業の成果】

教育用コンピュータをはじめとした教育教材等を計画的に整備し、教育環境の向上を図る。

【成果】

小学校はプログラミングロボット各 3 台、中学校はマイクロビット 11 個の計 130,680 円を購入したほか、田上小学校は生物顕微鏡 1 台 71,500 円、デジタル顕微鏡 1 台 56,100 円、羽生田小学校は絵画作品乾燥棚 2 台 131,890 円、デジタル握力計 2 台 28,380 円、田上中学校は実験用鉄製スタンド 6 台 138,600 円、直線シン 2 台 79,200 円など、各教科に使用する様々な備品を購入した。

【課題・意見】

1 人 1 台端末については、令和 7 年度に GIGA 端末の調達を行う予定である。次期 GIGA 端末の選定、補助要件である各種計画（端末整備・更新計画、ネットワーク整備計画、校務 D X 計画、1 人 1 台端末の利活用に係る計画）の策定・公表を行う必要がある。

(3) 学校給食費補助事業

評価：a (a)

【事業の概要】

食味のよい地元産コシヒカリを用いた米飯給食の普及定着と、米消費拡大、給食費の保護者負担の軽減に努める。また、地元農家や JA と協力して地元産食材を中心とした献立を展開する。

【成果】

920,000 円を補助し地元産コシヒカリの米飯給食を提供した。また、地元産の食材を給食に使用できるように納品組合と協力して取り組んだ。

【課題・意見】

地元産の食材は、旬の時期をはずれると、生産量や品質等が安定しないことがある。

(4) 学校給食費多子世帯軽減助成

評価：a (一)

【事業の概要】

町立学校及び町内に住所を有し町外の小中学校等に在籍する児童又は生徒を 2 人以上有する保護者に対し、2 人目の給食費を半額助成、3 人目以降は全額助成することにより経済的負担の軽減を行った。

【成 果】

年度	半額助成		全額助成		決算額
	小学生	中学生	小学生	中学生	
令和元年度	177 人	17 人	27 人	0 人	6,650,269 円
令和2年度	162 人	23 人	21 人	0 人	5,811,204 円
令和3年度	159 人	14 人	31 人	0 人	6,550,586 円
令和4年度	146 人	13 人	38 人	1 人	6,409,402 円
令和5年度	153 人	10 人	33 人	1 人	6,055,081 円

令和4年度から町外学校に在籍する児童生徒も対象としている。

【課題・意見】

物価高騰が続く中、本事業を継続実施することにより保護者負担の軽減を図っていき
たい。財源の確保が課題。

(5) 児童クラブの運営

評価：a (a)

【事業の概要】

小学1年生から6年生を対象に、希望する児童に放課後保育を実施する。

【成 果】

開設日数は、田上小学校 250 日（平日 205 日、土曜・長期休業 45 日）、羽生田小学校
291 日（平日 206 日、土曜・長期休業 85 日）。利用者は下表のとおり。

新型コロナウイルス感染症を始めとした感染症対策を徹底して行い、クラブの安全な
運営を達成した。

単位：人

	登録者数	延べ利用者数		
		平 日	長期休業・土曜日	計
田 上 小 学 校	82 (+10)	5,082 (-539)	775 (-200)	5,857 (-739)
羽生田小学校	94 (+7)	7,391 (+1,321)	1,611 (+341)	9,002 (+1,662)
合 計	176 (+17)	12,473 (+782)	2,386 (+141)	14,859 (+923)

※（ ）内、前年度比

【課題・意見】

登録者数の増減は大きくない。田上小学校では、平日・土曜・長期休業の利用者が減
少。羽生田小学校では、平日の利用者が大きく増加したため、指導員の勤務時数や業務
量が増加している。新型コロナウイルス感染症等の対策として、手指消毒等を徹底した。
安全性確保のため各児童クラブ共、2グループに分けるよう配慮している。

(6) 学校図書司書の配置

評価：a (a)

【事業の概要】

各学校図書館の環境整備、調べ学習支援、読み聞かせなど、児童生徒が図書に触れる
機会やつながりを向上させる。

【成 果】

各学校に1名の学校図書司書を配置し、毎月約16時間、図書整理や選書作業、児童生
徒が本に興味や親しみを感じるような図書館の環境整備に努めた。

【課題・意見】

月 16 時間の配置では業務量が制限されるが、担当の教職員と連携しながら図書環境の向上に取り組んでいく。地域学習センターと各学校図書館が連携し、諸課題についての情報共有を図っていく必要がある。

(7) ALT 配置

評価：a (a)

【事業の概要】

外国語活動並びに英語指導を補助し、国際理解の推進と英語教育の推進を図る。

【成果】

町全体で 2 人の ALT を幼小中学校に配置し、3 歳児から中学校 3 年生までの子ども達が英語に触れる機会を維持し、英語教育の推進に努めた。

【課題・意見】

ALT2 名は、加茂市と掛け持ちしており、幼小中学校と授業時間の調整が難しい。新たな ALT を見つけることが難しく、人材確保が今後の大きな課題である。

(8) ICT 支援員配置

評価：a (一)

【事業の概要】

学校における教員の ICT 活用をサポートすることにより、タブレット端末を活用した授業等を教員がスムーズに行えるため、ICT 支援員を令和 4 年度 2 学期から配置し、ICT 環境の活用推進を図る。

【成果】

ICT 支援員 1 名を配置し、3 校を巡回のうえ、ID の管理、機器の不具合時の対応、教職員への支援などサポートを行った。

【課題・意見】

ICT 支援員は、教育現場の環境面だけをサポートするのではなく、学習支援にも関わることが多く、教員との連携や協働が求められる。また、資質・能力のさらなる向上のため、研修機会の確保の検討が必要である。

2. 教育支援の充実

① 教育支援の充実

総合評価：B (71.8)

施策のねらい

- ・ 引き続き適応指導教室を開設し、不登校傾向のある児童生徒が登校して自分のペースで学習できる環境を整えます。
- ・ 支援員を配置し、年々増加傾向にある個別のきめ細かな支援を必要とする児童生徒に対する支援と見守りにあたることで、その子の学力や適応能力等が身に付く環境を充実させます。
- ・ 訪問相談員を配置して、家庭内で様々な問題を抱える児童生徒と保護者等を対象として相談業務にあたり、学校生活に向けた意欲を醸成します。
- ・ 就学補助によって、児童生徒の学びに経済的格差が生じないようにするなど、保護者の負担軽減のため、各種支援を行います。

(1) 適応指導教室

評価：a (a)

【事業の概要】

不登校等の児童生徒に対し必要な学習・教育支援を行う。

【成果】

指導員1名を配置し、不登校等の児童生徒が通いやすい環境を整備し、学習・教育支援を行った。前年度から登校していた4人で4月はスタートし、年度を通して月7人程度が利用した。前年度と比較すると3人減であった。

【課題・意見】

指導員と教職員が児童生徒の情報を共有し、連携した支援が行えるよう引き続き体制を整えていく。

現在、適応指導教室は中学校内に開設しているため、不登校傾向のある小学生が登校するのはハードルが高い。今後は、適応指導教室の開設場所について検討が必要である。

また、指導員の人材確保についても大きな課題である。

(2) 教育支援委員会運営事業

評価：a (a)

【事業の概要】

障害のある子どもたちの障害の状態、教育ニーズ、保護者の意見、医学・心理学等専門的見地からの意見等を踏まえ、その子どもに適した就学先を決定していく。幼児期からの教育相談や就学相談を行う。

【成果】

竹の友幼稚園、ルーテル幼稚園、小中学校、教育委員会の担当者を集めた連絡部会を年4回開催している。令和5年度から、3歳児健診時に発達が必要フォローとなった子どもの保護者と園・教育委員会が面談を行い、早期からの医療受診等へつなげられるよう取り組みを行った。また、就学先や就学までの流れをまとめたチラシを配布した。

これまでと同様に4歳児から気になる園児の情報交換、就学相談会での行動観察による子ども理解、保護者との個別相談に取り組んだ。

【課題・意見】

共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育」の重要性が叫ばれるなか、適切な就学・配慮が行えるよう、幼稚園、小中学校、教育委員会が連携し、早期からの情報共有

と継続的な相談支援体制の充実が課題。相談体制としては、母子健診後は発達要フォロー者の保護者との面談や年中児の子育て相談会、その後就学相談会、教育支援委員会へとつながっている。

(3) 支援員配置事業

評価：a (a)

【事業の概要】

特別な支援を必要とする児童生徒の身辺介助や安全確保、教育支援等を行う。

【成果】

田上小学校 6 人、羽生田小学校 4 人、田上中学校 4 人、計 14 人を配置。一人一人の状況に応じた学習支援、生活支援を行った。

【課題・意見】

一人一人に求められる支援は多様化しており、年々支援を要する児童生徒の割合は増加傾向にある。支援員と教職員が児童生徒の情報を共有し、連携した支援が行えるよう体制を整える必要がある。

(4) いじめ見逃しゼロスクール事業

評価：a (a)

【事業の概要】

小中学生が一緒になり「いじめ」について考え、行動することにより、いじめ撲滅、人権教育の推進を図る。

【成果】

感染症対策で、小学 6 年生と中学 2 年生だけの小集会で実施した。小グループに分かれて「いじめといじり」、「スマホを巡るトラブル」について話し合うことで、中学生は小学生の規範に、小学生は中学生を目標にすることができた。また、よい人間関係づくりについて学ぶことができた。

【課題・意見】

「いじめはよくない」という意識を 100%維持できるよう、保護者や地域の関心を一層高めて、横軸の連携を充実させることが課題である。

感染症対策が縮小されたため、小集会ではなく全校的・町ぐるみでしっかりと取り組んでほしい。また、いじめ防止基本方針の遵守、再発防止に努めてほしい。

(5) 人権教育、同和教育の推進

評価：b (b)

【事業の概要】

町教職員の人権教育への知識や関心を向上させる。

【成果】

小中学校合同で同和教育現地研修会を新発田市隣保館で実施。6 月 2 日の新潟県同和教育研究協議会総会や 11 月 22 日から 28 日に開催された「いのち・愛・人権」小千谷パネル展への出展など、研修・啓発に努めた。

【課題・意見】

部落差別、障がい者差別、いじめ問題など、人権をめぐる問題は多様化している。人権、同和教育への正しい理解を一層推進し、差別の根絶を目指す必要がある。

(6) 訪問相談員配置

評価：a (a)

【事業の概要】

問題を抱える幼児児童生徒やその保護者を対象に、家庭訪問や面談を行い、相談を通して問題の解決を図る。

【成 果】

週3日間、訪問教育相談員を配置し、来所相談2回・電話訪問3回・訪問相談（家庭訪問含）等342回、ケース会議12回を実施。小中学校における不登校、虐待、特別支援など、問題を抱える児童生徒や保護者への相談業務、学校との連携を行った。また児童相談所とも協同しながら、進めたケースもあった。

【課題・意見】

近年、不登校傾向の児童・生徒が増えており、本人や家庭が抱える課題が多様化、複雑化している。課題解決に向けて、本人にも家族にも個別の関わりが必要であり、限られた勤務時間の中で支援を行うのに課題がある。学校等や関係機関との連携をこれまで以上に行っていく必要がある。

(7) 就学援助

評価：a (a)

【事業の概要】

生活保護を必要とする世帯、または生活保護に準じて経済的に厳しく、保護が必要な世帯の児童生徒に対し、義務教育を円滑に実施できるよう学用品、修学旅行費や給食費など一定の援助を行う支援制度。保護者から申請があった場合、教育委員会で認定条件に沿っているか審査を行い、認定するかしないかを決定している。認定者には年3回、7月、12月、3月に支給を行う。

【成 果】

田上町就学援助費支給要綱を制定し、新たに、校外活動費、生徒会費、PTA会費の援助費目を追加した。また、次年度に小中学校の入学予定者に対し、新入学学用品費の入学前支給を行った。

申請は4月末で一旦締め切るが、年度を通して申請は受け付けている。田上小学校16人1,155,564円、羽生田小学校11人773,168円、田上中学校12人1,531,823円の合計39人、28世帯が認定され就学援助費の支給を行った。

【課題・意見】

就学援助制度について、年2回全児童生徒に周知文書を配付し、町広報誌にも掲載しているが、認知度が低いように感じる。今後も引き続き保護者に対し周知を行っていく。

年度途中で認定要件を欠いた場合、町教育委員会に報告するよう受給者に周知徹底するとともに、援助費の返還をお願いすることのないよう関係部署と情報共有に努める。

(8) 特別支援補助

評価：a (a)

【事業の概要】

特別支援学級に在籍している児童生徒世帯の所得が、ある一定の基準に該当することにより、就学中に係る経費の一部を補助する制度で、国庫補助事業である。交付を希望した児童生徒の世帯調書が基準に該当するか審査を行い、認定を決定している。交付対象者には年3回、8月、12月、3月に支給を行う。

【成 果】

年々、特別支援学級の児童生徒が増えている傾向にある。田上小学校21人、羽生田小

学校 18 人、田上中学校 14 人の合計 53 人在籍のうち、田上小学校 15 人、羽生田小学校 15 人、田上中学校 8 人の合計 38 人 1,666,372 円の支給を行った。対象外となった 15 人の理由は、所得状況により認定しない 1 人、希望しない 8 人、ほかの制度（就学援助）認定が 6 人であった。

【課題・意見】

毎年、補助金交付を希望した世帯の調書を審査する際は、補助金交付要綱や収入額の算定及び需要額の測定要領の改正内容について適切な事務処理を行うとともに、前年 12 月 1 日現在の世帯構成・所得について調査し、基準に該当するかしないかを充分精査し認定を行っていく。

3. 生涯学習の推進

① 施設の有効活用、連携と施設の充実 総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 田上町交流会館、地域学習センター等の施設利用の相談・支援を行い、主体的な学習支援、施設の利用促進に努めます。
- ・ 近隣市町村、文化協会、道の駅「たがみ」との連携を行い施設の利用促進に努めます。

(1) 田上町交流会館の運営

評価：a (a)

【事業の概要】

町民の生涯学習の振興を図るとともに、多様な交流を促進するため田上町交流会館を設置する。

【成果】

年 度	利用者数	予防接種関係者除く
令和2年度	18,478人	同左
令和3年度	42,047人	19,512人
令和4年度	43,069人	27,539人
令和5年度	42,206人	35,189人

生涯学習系の事業に加えて、道の駅との連携事業等の実施や3階に子どもの遊具の設置、多目的ホールの開放等を実施した結果、町外の方々からも利用していただき、田上町をPRすることができた。

【課題・意見】

教育委員会だけでなく子育て支援センターや保健福祉課、観光協会と連携した事業を実施し、幅広い年代の利用を促していきたい。

(2) 田上町地域学習センターの運営

評価：a (a)

【事業の概要】

町民の教育と文化の発展に寄与するとともに、地域資源等を活用した多様な活動を支援するため、田上町地域学習センターを設置する。

【成果】

令和3年3月8日オープン。令和4年度の貸出冊数、使用者数は次のとおり。

	貸出冊数	貸出人数	研修ルーム等 使用者数
令和2年度	1,944冊	441人	158人
令和3年度	23,281冊	5,308人	648人
令和4年度	22,704冊	5,401人	1,010人
令和5年度	21,672冊	5,125人	1,062人

【課題・意見】

貸出冊数、貸出人数とも減少となったが、学習センターの周知が広まり研修ルームの利用者が増加した。今後も利用促進に努めるとともに、蔵書を増やしていく必要がある。

(3) 施設の有効活用、連携と施設の充実

評価：a (a)

【事業の概要】

道の駅との連携を始め、町観光協会や子育て支援センター、子育て世代地域包括支援センターと連携し各種事業を実施した。

【成果】

期日	内 容	参加者数	連携先
5月5日	こどもまつり	約 3,000 人	新潟薬科大学、子育て世代包括支援センター、子育て支援センター等
7月9日	あじさい音楽祭	約 100 人	町観光協会、町文化協会
2月9日～ 3月10日	ひなめぐり	—	道の駅、椿寿荘、湯田上温泉等

【課題・意見】

発表の機会を提供するとともに連携した事業により町外だけでなく、県外の方々にも田上町をPRすることができた。

② 生涯学習の情報提供

総合評価：C (50.0)

施策のねらい

- ・ 広報紙、ホームページ、メール配信等による学習情報の提供を行います。

(1) 生涯学習情報の発行事業

評価：a (a)

【事業の概要】

生涯学習事業や各種大会、図書等の情報を掲載した生涯学習情報を発行する。

【成果】

毎月1回、町内全世帯に配布し、生涯学習事業の周知、参加促進を図ることができた。地域学習センターの情報コーナーやサークル紹介コーナーを設け、施設の利用や生涯学習への参加促進に努めた。

【課題・意見】

わかりやすく見やすい紙面を心がけた。また、各種教室等の情報や、サークル活動情報を掲載するなど、生涯学習活動への参加促進に努めていきたい。

(2) ホームページによる情報発信

評価：b (b)

【事業の概要】

生涯学習に係る情報を町のホームページに掲載し情報発信する。

【成果】

ホームページ上に生涯学習情報を毎月の発行日に合わせて掲載した。そのほか、駅伝大会、二十歳のつどい、各種イベントの開催告知、実施報告を電子媒体で行ったことで、事業の周知、参加促進を図ることができた。

【課題・意見】

各施設情報、イベント情報、広報紙について情報発信を行っている。町の文化財を紹介するなど、新たなコンテンツの情報発信に努めたい。

(3) メール配信、SNS を活用した情報発信

評価：c (c)

【事業の概要】

生涯学習事業や交流会館に関する情報を町メールやエックス（ツイッター）で発信し周知する。

【成 果】

主に生涯学習情報により、イベントの告知や募集について周知した。

【課題・意見】

SNS 等いろいろなメディアを活用し、参加者の掘り起こしを行いたい。

③ 多様な学習機会の創出と展開

総合評価：B (72.7)

施策のねらい

- ・ 幅広い世代を対象とした各種講座・教室を開催し、多様な学習機会を提供します。
- ・ 習得した知識を地域に広げるための支援を行い、地域へ展開できるよう努めます。

(1) ゆうゆう教室

評価：a (a)

【事業の概要】

レクリエーション、自然体験、創作活動等を通じ、楽しむことの中から子ども達の自主性や協調性、創造性及び豊かな情操を育む。

【成 果】

年間を通し様々な体験する機会を提供することができた。5月は「こどもまつり」と連携し登録者に参加を呼びかけたところ、父母や祖父母等と一緒に参加している様子を目にすることができた。新潟薬科大学との連携事業では、大勢の子どもが参加し大人気な教室となった。

期日	内 容	参加者数
4月16日(土)	親子でアート・デコールバック作り	23名(10親子)
5月 5日(金)	こどもまつりに参加しよう	—
6月24日(土)	親子クッキング	32名(16親子)
9月23日(土)	新潟薬科大学・シャボン玉を作ってみよう	19名(学生8名参加)
11月25日(土)	ねんどで作る来年の干支	23名
12月16日(土)	ゆうゆうクリスマス	30名
2月17日(土)	スイーツ作り(4、5、6年生限定)	23名
3月 3日(土)	親子ふれあい運動会(モリモリ運動大学)	45名
合 計		195名

【課題・意見】

高学年(4～6年生限定)の教室については、大好評だったので次年度も実施したい。

(2) 夏休み妙高青少年研修

評価：a (a)

【事業の概要】

自然体験や集団体験を通して生きる力を育むとともに、地域活動等でリーダーとして活動できる青少年の育成を図る。

【成 果】

例年、申込みが殺到するためメール及びファックスでの申込みも可能とした。大型バスの導入及び食事代の値上がりにより参加費を値上げした(7,000円【2,000円増】)。また、当初は8月3日(木)～5日(土)の日程を予定していたが、長岡花火と重なったことでバスが確保できなかったため、急遽日程を変更し7月30日(日)～8月1日(火)の開催となった。

年度	小学生	中学生	合計
2年度	中止		
3年度	19名	12名	31名
4年度	19名	16名	35名
5年度	15名	9名	24名

【課題・意見】

今後も施設利用料等の値上げが予定されている。参加費の値上げを避けるため、プログラムや開催場所の見直しをする必要がある。

(3) 子ども夏休み教室

評価：a (a)

【事業の概要】

遊びや伝統文化、生活、自然の中での体験により、心身の健やかな成長をもたらす学習機会を提供する。

【成 果】

3つのプログラムを計画・実施し、総計103名が参加した。プログラムの内容及び参加者の内訳は下表のとおり。

期 日	プログラム名	参加者
7月22日(土)	①夏の天体観察会	親子33組
8月10日(木)	②ミニカップで作るフラワーアレンジ	21名
8月21日(日)	④ニジマスのつかみ取り	49名
合 計		103名

【課題・意見】

申込みが多数のプログラムについては抽選を行ったが、当日欠席される方がいた。

屋外で行う「夏の天体観察会」、「ニジマスつかみ取り」については、雨天時の対応を検討する必要がある。

(4) 大人のためのゼミナール

評価：a (a)

【事業の概要】

主に成人向けの各種教室(講座)を開催し、青年、壮年層の生涯学習参加へのきっかけづくりとする。また、生涯学習指導者の発掘の場とする。

【成 果】

5つのプログラムを計画・実施した。プログラム内容及び参加者数は下表のとおり。

期 日	プログラム名	参加者
5月10日(水)	絵手紙教室 ①	21名
24日(水)	〃 ②	21名
31日(水)	〃 ③	21名
7月26日(水)	藍を使った藍染スカーフ作り	21名
11月7日(火)	終活講座①	27名
14日(火)	〃 ②	24名
21日(火)	〃 ③	26名
12月3日(日)	魚のさばきかた教室	16名
1月20日(土)	おりがみ教室	15名
3月1日(金)	終活講座④	33名
	合 計	225名

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症が5類に移行した結果、講座、教室に参加者が戻りつつある。住民の方が興味・関心がある内容で講座を開催していきたい。

(5) 生涯学習行政出前講座

評価：c (c)

【事業の概要】

町が重点的に取り組んでいる施策や暮らしに身近なテーマなどを用意し、職員が出向き直接町民に説明、意見交換することにより、町政への関心を深めるとともに、生涯学習意識の啓発と行政の活性化を図る。

【成 果】

出前講座の実施はなかった。

【課題・意見】

今後も事業を継続していくとともに、講座内容の見直しを行った上で、より認知度を上げるべく町民への周知を行っていく。

(6) ストレッチ教室

評価：s (s)

【事業の概要】

家庭でも気軽にできる体操を通して、日常生活に運動を取り入れ、健康増進、体力向上を図る。

【成 果】

からだを動かすキッカケ作りを提供する事ができた。参加者は町内だけでなく町外から多くの参加者があり、教室を通し町内外の交流を図る事ができた。

年度	開催回数	参加者数
令和元年度	21回	584名
2年度	18回	680名
3年度	20回	807名
4年度	22回	1,107名
5年度	22回	1,109名

【課題・意見】

参加者より「自粛期間中に体力が低下した」との声があったため、感染症拡大防止に努めながら可能な限り継続して実施し、町民の健康づくりを支援する。

ストレッチ教室に参加したいという方が大勢いるので、このような機会を増やしてほしい。

(7) 早朝ハイキング

評価：a (a)

【事業の概要】

朝の清々しい空気を吸いながら護摩堂山を登り、頂上でラジオ体操を行うなど交流を深める。納会では皆勤賞、精勤賞を表彰する。

【成 果】

初回の4月が雨で延期になったものの、7回すべて実施でき、延べ177人が参加した。11月には納会を開催し、皆勤賞12人、精勤賞5人を表彰した。

【課題・意見】

11月の納会については、田上町交流会館の多目的ホールで実施した。今後も継続し、町民の健康づくりを支援する。護摩堂山への登山者が多いにもかかわらず新規参加者が少ないのは各自のライフスタイルによって自由に登山する傾向となっている。令和元年より護摩堂山入口と山頂にポスターを掲示し、山頂に登山された方にチラシを配付しながら実施しており、今後も引き続き、新規の参加者を呼び掛けていく必要がある。

(8) 囲碁将棋大会

評価：a (a)

【事業の概要】

囲碁将棋を通じ参加者同士の交流、親睦を深める。

【成 果】

新型コロナウイルス感染症が5類へと移行したことから感染症対策を緩和して1テーブル2組での対局とし、昨年同様に高齢者も多いことからテーブルと椅子による対戦とした。囲碁の部は20人、将棋の部は43人、計63人（前年度比：10人増）が参加した。

【課題・意見】

囲碁、将棋の普及、町民のコミュニケーションの場として機能している。今後も継続していきたい。また、囲碁の部は高齢化により人数が固定してきているが、将棋の部は昨年以上に将棋クラブなどの活動もあり小学生の参加が増えている。囲碁も含め引き続き若い人からの参加を呼び掛けていきたい。

(9) ふるさと歴史講座

評価：a (a)

【事業の概要】

田上町、その他の歴史と文化について学習し、郷土意識を高める。

【成 果】

2回開催し65名の参加があった。新たな講師による講座の開催をすることができた。

【課題・意見】

田上の歴史を知るための講座開設を心掛け、いつも参加者からは大変面白かったと評価をいただいているが、その内容により参加者の偏りがあることも事実としてとらえ、わかりやすいテーマで誰もが受講したくなるよう質の高い講座を提供できるよう工夫していきたい。

(10) 人権講座

評価：a (a)

【事業の概要】

町民の差別問題を始めとする人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権感覚の育成を図る。

【成 果】

新潟県、総務課、町民課と連携し、拉致問題を切り口とした人権問題を啓発するため、交流会館・町民ギャラリーで拉致に関するパネルを展示した。また、3月29日(金)、交流会館でこわれ者の祭典・副代表のKaccoさんを講師に迎え「みんなちがうから面白い」と題した人権講演会を開催。24人が参加した。

【課題・意見】

拉致問題の関心の高さや講師の知名度もあったため、町内に限らず町外からの参加があった。今後も講座内容や実施方法等を工夫し、人権啓発に努めていく必要がある。

(11) 家庭教育セミナー

評価：a (a)

【事業の概要】

子どもの心理や心身の成長に伴う親の役割、関わり等について学ぶ機会を提供し、家庭での教育力の向上を図るとともに、家庭教育の重要性について認識を深める。

【成 果】

親子クッキングや親子リトミック体験を実施した。初めてリトミックを体験される方もおり好評だった。

期 日	プログラム名	参加者
6月24日(土)	親子クッキング	32名
11月13日(月)	リトミック体験	26名
	合 計	58名

【課題・意見】

親子での運動や音楽を楽しむ機会を作って欲しいとの声があったので、今後、親子コンサートを計画したい。

④ 主体的な活動への支援、人材の育成、活用 総合評価:B(75.0)

施策のねらい

- ・ 学習ニーズに対応できる指導者の養成を行います。
- ・ 自主的なグループ活動の支援を行います。

(1) 体験活動支援センター

評価：a (b)

【事業の概要】

地区やPTA、個人の生涯学習活動及び体験活動を支援するため、情報の収集と提供を行う。

【成 果】

区長や地区PTA等を始め個人から、計9件(前年度比:8件増)の相談があった。

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症が5類に移行した事により、地域で「学びたい」、「教えたい」というニーズが高まっていることを感じる。より多くの人に学ぶ機会を提供できるようPRしていきたい。

(2) 各種サークル活動の育成

評価：a (a)

【事業の概要】

公民館・交流会館等で活動するサークルの相談や情報発信などの支援を行う。

【成果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの相談に応じた。大人のためのゼミナール「絵手紙教室」を開催し絵手紙教室参加者の増加等に寄与した。

【課題・意見】

引き続き、次代を担う若い方からも自主サークルなどの結成を促さなければならない。交流会館利用団体の情報発信や支援に努めたい。

(3) 二十歳のつどい

評価：a (a)

【事業の概要】

二十歳を祝うと同時に、大人としての自覚を高めてもらう。

【成果】

民法改正により「十八歳」が成人となったが、引き続き二十歳を対象に実施した。対象者による実行委員会を組織したことで、普段町事業と関わりの少ない青年層が主体的になって活動ができた。

【課題・意見】

出席率が対象者全体の半分強程度（113人中66人、58.4%）の出席状況であった。引き続き、より多くの対象者から出席してもらえるような計画を実行委員と意見を交わしながら立てていきたい。

⑤ 地域活動との連携、活性化

総合評価：B (70.0)

施策のねらい

- ・ 多様化、高度化する学習要求に対応できる体制の確立をします。
- ・ 地区公民館活動や生涯学習推進員との連携を行います。

(1) 生涯学習地区推進員の活用

評価：a (a)

【事業の概要】

各地区に生涯学習推進員を委嘱し、各地区の公民館等を拠点に生涯学習活動への意欲向上、活動援助等を行う。

【成果】

推進員の役割や情報交換など認識を深めるため、7月2日に「田上甚句」をテーマと

した研修会を開催した。研修会では、新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられたことにより各地区で祭りを実施することに合わせ田上甚句太鼓保存会による田上甚句の実技研修を併せて実施した。

【課題・意見】

地区での実践に生かしてもらうためには、推進員自身にいろいろな教室や研修を体験してもらうことが大切と考え、令和元年度から体験型の研修会を実施している。地区で実践しやすい内容の研修を企画していきたい。

(2) 生涯学習ボランティア養成講座

評価：a (a)

【事業の概要】

生涯学習に係るボランティアを育成するため、企画から運営までのスキルアップ講座を行う。

【成果】

生涯学習地区推進員等との連携が不可欠であること、講座を企画するためには体験が重要であり、座学より実践的な内容の方が効果的であると考え、生涯学習地区推進員会議の研修と合わせて、田上甚句の実技研修を実施した。

【課題・意見】

広報チラシの内容を再検討するなどし、生涯学習地区推進員のように町から委嘱されている方以外にも、新規の参加者・人材を呼び込める内容にしたい。

(3) 地区公民館活動補助事業

評価：b (b)

【事業の概要】

地区公民館が行う生涯学習活動を推進するため、その活動に要する経費の一部を補助し、地区の活性化と生涯学習を支援する。

【成果】

16団体に819,000円を補助。子ども会活動事業分では、3団体に36,000円を補助し、生涯学習活動を推進した。

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられたのも関わらず、事業を実施できなかった地区があった。また、事業についてもコロナ前に比べ、縮小傾向が見られた。今後も機会を見て助言する必要があると思われる。

(4) 研修参加による職員の資質向上

評価：a (a)

【事業の概要】

生涯学習事業等の企画立案から運営まで行える職員の育成を図るため、各種研修会に参加する。

【成果】

期 日	研修会・大会名	参加者
4月21日(金)	中越地区社会体育研究協議会	1名
8月10日(木)	中越地区社会教育研究集会	1名
8月30日(水)	新潟県公民館大会	1名

期 日	研修会・大会名	参加者
9月 2日（土）	中越地区社会体育総合研修会	1名
9月30日（土） ～ 10月 1日（日）	新潟県スポーツ推進委員大会	1名
10月18日（水）	新潟県社会教育研究集会	1名
10月26日（木）	中越地区公民館研究大会	2名
11月20日（月）	中越地区社会教育関係者交流会	1名
	合 計	9名

【課題・意見】

できるだけ各種研修会・研究大会等に参加するよう取り組んでいる。その研修会等で得た情報や新たな関係を基に各事業の改善や新たな事業の企画につなげることが重要。今までの繰り返しだけではなく、学んできたことを新たな企画として取り組んでいきたい。

（５） 大学連携事業

評価：a（a）

【事業の概要】

新潟経営大学、新潟薬科大学、新潟中央短期大学と連携し、各大学の教育資源を町の教育に活用する。

【成 果】

新潟経営大学からはスポーツ指導者研修会及びトレーニング教室の講師、新潟薬科大学からはゆうゆう教室の学生スタッフ、新潟中央短期大学からは幼稚園の学生支援スタッフなど、児童生徒の教育活動の多様な機会に連携することができた。

【課題・意見】

大学の教授等だけでなく生徒も派遣、協力していただき、各種研修会や教室を実施することが多かった。

4. 生涯スポーツの推進

① 生涯スポーツの普及、啓発

総合評価：B（70.0）

施策のねらい

- ・ スポーツイベント、教室の開催等気軽にスポーツに取り組める機会の提供をしたり、広報、ホームページなどで、情報提供を行います。
- ・ 指導者の育成、研修会等を実施します。
- ・ 健康寿命の延伸につながる健康、体力づくりの機会の提供を行います。
- ・ 個人でもできる健康、体力づくりの場の提供をします。

（1） 田上町スポーツ協会との連携と支援

評価：b（a）

【事業の概要】

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

【成 果】

各種大会の委託について、導入から8年目を迎えた。計画どおり各種大会を開催することができた。スポーツ事業を充実させるため、まずはスポーツ協会との情報交換等が必要であり、今後実施していきたい。

【課題・意見】

スポーツ協会における財源不足や人材確保などの課題が残っている。今後も継続して支援を行うとともに、相談の場を設けるなど連携体制を強化していく必要がある。

（2） 佐藤杯争奪町内駅伝競走大会

評価：a（a）

【事業の概要】

郷土の生んだマラソン界の権威である佐藤秀三郎氏より贈られた優勝杯の争奪戦として駅伝大会を開催し、青少年のスポーツ振興及び体力・精神力の向上を図る。

【成 果】

「総合の部」、「町内の部」、「女子の部」に加え、今年度から新たに「3区間の部」を創設した。3区間の部の5チームを含め、合計25チームがエントリーし、町スポーツ関係者やスポーツ推進委員からも協力を得ながら円滑に大会を開催することができた。また、小学生等を対象とした「ちびっこマラソン大会」も実施した。

【課題・意見】

従事役員の確保が難しい。近年は田上陸上競技協会の紹介で専門知識を持った競技役員を多く派遣していただいているが、町内の有志や大学連携事業を活用する等、広くボランティアを募っていきたい。

また、来年度からは選手送迎バスを用意することにより、中継所の駐車車両による混雑の緩和、また選手点呼時間集合の徹底を図る。

（3） 田上町スキー教室

評価：a（一）

【事業の概要】

スキー技術の習得・向上とともに、スキーの楽しさや冬山の自然体験を通じて、町民

相互の交流を促進する。

【成 果】

4年ぶりに開催することができた。新潟県池の平温泉スキー場にて、1泊2日で実施した。小学生12人、中学生13人、一般6人が参加した。

【課題・意見】

初めてスキーを経験する小学生が7人と多く、スタッフを増員するか、スキー場の指導者にお願いするかなど、初心者への対応が課題となっている。

(4) スポーツ推進委員主導による生涯スポーツの普及 評価：a (a)

【事業の概要】

スポーツ振興を促進するための指導者育成、研修会等を実施する。

【成 果】

4つの体育行事（ソフトボール大会、佐藤杯駅伝、ゆうゆう教室、モリモリ大学）の計画、運営を行った。また四市南西蒲ブロックスポーツ研修会では、開催地としてコーディネーショントレーニング、ボクシングエクササイズ等を実施し、参加者からも好評だった。

【課題・意見】

スポーツ推進委員が主体となって町内でのスポーツ振興に関わっていけるよう、研修会への参加、機会の提供を行っていきたい。

(5) ちょいトレ 評価：a (a)

【事業の概要】

運動習慣定着のきっかけと健康増進の一助となることを目指す。

【成 果】

全5回、延べ109人が参加。大学連携により新潟経営大学の五十嵐先生を講師として開催することができた。また、町保健福祉課と連携することにより運動習慣が必要な方に運動の機会を提供する事ができた。

【課題・意見】

トレーニングを行える会場がないため、教室終了後も自宅でトレーニングが継続できるよう、トレーニングメニューを組み立てていく必要がある。

② スポーツ施設の管理、運営

総合評価：C (50.0)

施策のねらい

- ・ 学校体育施設の有効活用、管理運営体制の確立を行います。
- ・ スポーツ施設の今後のあり方について考えていきます。特に町民体育館について早急に検討を行います。

(1) 体育施設の維持管理 評価：c (c)

【事業の概要】

各体育施設の適正な維持管理を行う。

【成 果】

町民体育館水道管修繕（109,942 円）、羽生田野球場スコアボード修繕換（150,876 円）を始め各施設の維持管理に努めた。また、町民体育館を閉鎖したことに伴い、新潟経営大学の五十嵐講師、町内体育団体関係者及び公募委員で構成する検討委員会で新たな町民体育館建設に向けた検討を行った。

【課題・意見】

町民体育館を施設の老朽化に伴い令和5年3月31日をもって閉鎖した。その他の施設については、日常的な点検や計画的な修繕、管理を行う必要がある。町民体育館の検討委員会については、当初3回の開催を予定していたが、加茂市田上町消防衛生保育組合の清掃センター建設事業が見直されることに伴い、やむなく休止した。

（2） 学校開放事業

評価：a（a）

【事業の概要】

夜間、休日等に社会体育施設の補完施設として、小中学校の体育施設を一般団体へ貸し出すことで生涯学習、スポーツの推進を図る。

【成 果】

利用団体数及び利用者数は全体的に増加したが、田上小学校の体育館は、利用回数及び利用者数とも減少した。利用団体の加入者数が顕著に減少したと思われる。

施設名	利用団体数	利用者数
田上中体育館	574（+289）団体	5,313（+2,335）人
〃 武道場	201（+27）団体	1,835（+37）人
田上小体育館	551（-96）団体	8,114（-2,993）人
羽生田小体育館	389（+161）団体	6,262（+2,164）人
合 計	1,715（+381）団体	21,524（+1,543）人

【課題・意見】

限られた学校の体育施設では限界がある。スポーツニーズに応えるため、町民体育館の建設が望まれる。

③ スポーツ活動の振興

総合評価：B（68.7）

施策のねらい

- ・ スポーツ団体の育成、指導者の養成、支援を行います。
- ・ スポーツ活動を奨励します。

（1） 町内スポーツ指導者研修会

評価：a（a）

【事業の概要】

スポーツ指導者の資質の向上を目的に指導者に専門的でより高度な技能等の習得を図ることを目的とし講習会を開催する。

【成 果】

10月14日、「逞しい選手の育成方法」をテーマに新潟経営大学、五十嵐真也さんを

講師に研修会を開催し、13人が参加した。指導する上で必要な知識、技術を学ぶ事ができた。また、他競技の指導者による情報交換を行うことができ、有意義な講習会となった。

【課題・意見】

指導者だけでなく、アスリート本人やその家族に聞く機会を持って欲しいとの意見が多数あった。

(2) 全国大会出場者への褒賞制度

評価：a (a)

【事業の概要】

スポーツ・文化を通じて、町の代表若しくは団体の代表として各種競技会に参加、または審査会、発表会等で優秀な成績を収めた町民を褒賞する。

【成果】

全国規模の競技大会、コンクールに出場した21人、及び国際大会に出場した1名の計22名に230,000円を授与した。個人での参加者が8名で、団体での出場者が14名であった。

【課題・意見】

制度の周知に努め、申請漏れを防いでいく必要がある。

(3) 田上町スポーツ協会との連携と支援

評価：b (a)

【事業の概要】

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

【成果】

各種大会の委託について、導入から8年目を迎えた。計画どおり各種大会を開催することができた。スポーツ事業を充実させるため、まずはスポーツ協会との情報交換等が必要であり、今後実施していきたい。

【課題・意見】

スポーツ協会における財源不足や人材確保などの課題が残っている。今後も継続して支援を行うとともに、相談の場を設けるなど連携体制を強化していく必要がある。

(4) 中学校部活動地域移行

評価：a (一)

【事業の概要】

部活動を段階的に地域へ移行することにより、教職員の負担軽減、少子化への対応を図るとともに、多様なスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境を整備する。

【成果】

田上中学校長、町スポーツ協会長、新潟経営大学准教授、中学校教諭、保護者、文化協会員、スポーツ指導者で構成する検討委員会を設置。部活動の在り方や推進計画等について2回の委員会を開催。令和5年度は卓球のモデル事業を整備することができた。

【課題・意見】

令和8年度からの休日の部活動完全移行を目指し、受け皿となる地域スポーツ活動の整備、補助制度の検討が必要である。

5. 芸術・文化の振興

① 芸術行事等の充実

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 文化祭等魅力ある文化行事の開催を、町民との協働のもとに推進します。
- ・ 田上町交流会館を活用した多様な芸術、文化を鑑賞する機会と活動成果を発表する機会を充実させます。また、町内外問わず芸術、文化を通じた交流ができるよう情報発信を行います。

(1) 文化祭の開催

評価：a (a)

【事業の概要】

美術及び芸能を愛好する町民の創作を発表する場であると同時に、日常生活の中で芸術文化に親しむ心を養う。

【成果】

新型コロナウイルス感染症が5類移行となり感染症対策に配慮し、町制施行50周年記念事業として開催をして、展示の部を10月18日～25日の8日間、芸能の部を11月19日に分けて開催した。展示の部は、個人・団体併せて30団体、作品数は約262点以上の出展数となり、8日間で2,755人の来場者数となった。また、芸能の部では、出演団体16団体(224人)、16プログラムで866人の来場者となった。

【課題・意見】

展示の部と芸能の部を分けたことにより、観覧者から各階への移動がなく、1階のみでゆっくりと観られたことや、芸能を観ている方からは展示された作品をゆっくりと鑑賞することができたとの意見が多かった。開催時期や開催期間に多少の意見があるものの今後は、展示と芸能を分けて開催することが大勢の方から観てもらえることができるため継続していきたい。

(2) 交流会館コンサート等の音楽振興

評価：a (a)

【事業の概要】

発表の機会をつくるとともに、芸術文化を鑑賞する機会を提供する。今回から事業名を「ロービーコンサート等の音楽振興」から「交流会館コンサート等の音楽振興」に変更した。

【成果】

「交流会館コンサート」として3回開催し364名が参加した。オーケストラや箏等と幅広い内容でクリスマスコンサートや新春コンサート、また、道の駅「たがみ」、椿寿荘、町観光協会が連携して取り組んだ「たがみひな巡り」イベントでは、開催期間中に「ひなまつりコンサート」を開催した。

【課題・意見】

交流会館多目的ホールのピアノだけではなく、交流会館1階のホール、中ホールやホワイエのピアノ等を活用したストリートピアノの実施、道の駅「たがみ」テント下での野外コンサートなども検討していきたい。

② 芸術、文化団体の指導者の育成

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 文化協会をはじめとした各種芸術、文化団体の育成、支援を行います。
- ・ 指導者ボランティアの育成を行います。

(1) 芸術、文化に関する指導者、活動組織の育成

評価：a (a)

【事業の概要】

公民館・交流会館等で活動するサークルの相談や情報発信、イベント開催などの支援を行う。

【成果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの発表会開催等の相談に応じた。

【課題・意見】

引き続き、次代を担う若い方からも自主サークルなどの結成を促さなければならない。

(2) 文化協会への支援

評価：a (a)

【事業の概要】

文化協会との連携、協力体制の強化。

【成果】

文化協会の活動費の一部 250,000 円を補助した。また、町文化祭を連携して田上町交流会館で開催した。

【課題・意見】

文化協会加盟団体数は 30 団体と昨年より 1 団体増加した。また、加盟登録者の高齢化も顕著になっており、引き続き新規サークルの結成や支援をしていく必要がある。

6. 文化財と伝統芸能の継承

① 文化財の保存・活用

総合評価：C (58.3)

施策のねらい

- 文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産等・郷土資料の適正な保管、収集、管理を行います。また歴史、文化に関する講座を通して、文化財に関する意識の啓発を行います。

(1) 指定文化財の管理助成

評価：b (b)

【事業の概要】

指定文化財所有者の保存に対して、その費用の一部を助成する。

【成果】

国指定文化財：1件 10,000円

県指定文化財：1件 10,000円

町指定文化財：4件 20,000円

名木管理助成：6件 30,000円

【課題・意見】

各管理者が文化財の管理を安定して行えるよう、引き続き助成を行っていく。町指定木については、樹勢が落ちる木も出始めているため、田上町名木保護事業補助金を活用して支援していきたい。

(2) 文化財の一般公開

評価：b (b)

【事業の概要】

文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産の啓発。

【成果】

民俗資料館で文化財や埋蔵文化財を常設展示している。

【課題・意見】

民俗資料館については、令和元年9月より連絡先が交流会館に移ったことから、これから見たいという観覧者には鍵を開けるまで待つことになるが、支障はでていない。地域学習センターに移動した行屋崎遺跡出土品等については、文化祭で展示したりする等、展示場所とその方法を工夫する必要がある。

(3) 埋蔵文化財試掘調査

評価：a (a)

【事業の概要】

埋蔵文化財が存在する可能性のある工事予定地において、文化財が破壊されないよう事前に小規模な発掘調査を行い、文化財の有無やその範囲、深さなどを把握する。

【成果】

令和4年度に田上郷横場地区の試掘調査が終了。翌5年度、試掘箇所では田植え機がぬからないよう重機を待機させた。田上郷横場地区の試掘調査の全工程が終了した。

【課題・意見】

現在、発掘調査を行える職員が1名しかおらず、今後の発掘調査や町の歴史・文化を伝える専門的な人材の育成が必要である。

施策のねらい

- ・ 各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場、PR 活動の促進、後継者の育成支援を行い、学校教育の場等における伝統文化活動の機会の提供を行います。

(1) 伝統芸能の保存のための支援と公開

評価：b (b)

【事業の概要】

各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場の確保や後継者の育成支援を行う。

【成 果】

田上甚句太鼓保存会による小学校でのクラブ活動指導など、学校と甚句保存会が連携した取り組みを行った。田上町文化祭において、五社神楽の発表を行い、多くの人から神楽舞を知ってもらうことができた。

【課題・意見】

田上甚句太鼓保存会や五社神楽については一定の支援・連携が行えているが、川前地区の神楽舞とは十分な連携が取れていない。

(2) 小学校での伝統文化継承

評価：b (b)

【事業の概要】

伝統芸能の伝承のため小学校と連携した伝承活動を展開する。

【成 果】

田上甚句については、小学校でのクラブ活動指導、運動会前の講習会、小学生の発表支援を行った。

【課題・意見】

田上甚句太鼓保存会や五社神楽については一定の支援・連携が行えているが、川前地区の神楽舞とは十分な連携が取れていない。まずは川前地区神楽舞の実態把握に努めたい。